

# イタリア共和国における 中等職業教育カリキュラムと指導教員 —国際比較の視点から—

伊 藤 一 雄

## 1. 緒言

欧州の職業教育・訓練は一般に IVET(Initial Vocational Education and Training) といわれる初期職業教育・訓練と CVET(Continuing Vocational Education and Training) といわれる継続職業教育・訓練とに分かれている。IVET は学齢段階の若者に学校教育の枠内で職業教育・訓練をおこなうものであり、CVET は一般の労働者を対象に離職に対する職業訓練などを国や自治体が行うものである。イタリアの場合も、学校では初期段階の職業教育を実施している。本研究は 2012 年 11 月に比較中等職業研究会が行ったイタリアの職業教育の調査・研究のうち、筆者が分担したイタリアのミラノ市の技術高校及び職業高校のカリキュラム及び授業担当教員の状況について報告する。

## 2. 学校から仕事への移行システム

学校から仕事への円滑な移行を、その教育・訓練の内容も含め、どのように展開するかは、情報化が進み、「知識集約型」職業の増加した先進諸国といわれる国においては、共通の課題である。とりわけ労働者の先任権が守られている EU 諸国においては若者の職業教育・訓練及び雇用問題は深刻である。後期中等教育段階では、日本の学校卒業後 1 年経過した状況に相当する若者の雇用率は、2008 年段階でフランス、イタリア、スペインなどは 60% に満たない。比較的高いとみられるスイス、オーストリアでも 90% に届いていない。ドイツはその中間にある。雇用率が 75% に満たない国は EU 約 20 カ国のうち半数ある。この問題をどのように解決するかが、欧州諸国に共通した課題である。

後期中等教育を修了した若者が、仕事の世界へどのような経路を通して入るのか、国際的な視点から見ると以下の 3 点に集約される<sup>1)</sup>。

### 2. 1. 徒弟制 (Apprenticeship) が主であるシステム

中等教育段階で約 50% 以上の若者が、学校と企業で交互に教育及び職業訓練を受ける制度である。ドイツ、スイスなどで伝統的に実施されている。その方法は様々であるが、ドイツのデュアルシステムとして知られている制度がそれに相当する。これは企業と見習い契約を結んだ訓練生が、学校で主として職業教育の理論的内容を学習し、職場で実務に関係する実習を行い、一定の知識・技能を習得して後、職業資格を得て入職するシステムである。産業構造の変化が脱工業化・

情報化の方向に進むにつれて、この制度に適合しない職種も生まれてきている<sup>2</sup>。

## 2.2. 学校での職業教育が主であるシステム

約50%以上の若者が学校で職業教育を受ける。この職業教育には理論及び基礎的実習を含んでいる。また20%程度の若者が徒弟制に入る。フランス、ベルギー、フィンランドなどの国がこの制度を取り入れている。今回調査したイタリアもこの制度に依拠している。

この制度は学校で職業教育を行い、特定の職業に従事するのに必要な知識及び基礎的技能を習得し、学校を卒業することにより、特定の職業資格を取得するのに必要な受験資格を得たのち、国家試験に合格して入職する道である。学校教育と職業資格との結びつきが深い。特定の学校を卒業することにより、職業資格を取得する道が開けるのである。この制度も変化の激しい現代社会において適応しない職業が現れている。

### 1 学校での普通教育が主であるシステム

50%以上の若者が普通教育を受ける。これは日本やアメリカ合衆国の場合と同様の形態であるが、EU圏内ではスペイン、ポルトガル、ギリシャがこの制度になっている。

ただ日本の場合には高校進学後も大学などの高等教育機関に進学する生徒の割合が高く、これが高校段階での若者の就職を先送りしている側面もある。中等教育段階で職業的教育・訓練を受けていない若者の雇用状況は悪く、日本の場合でも工業高校卒業生の就職率と普通科のそれとは明らかな差がある。また、正規雇用率の割合も専門高校卒業生のほうが高い。この職業教育を受けることなく社会にでる生徒・学生が多い国では、学校から仕事への道を円滑にする目的で「キャリア教育」が重視されてきている。

現在EUでは、EQF (European Qualifications Framework) として標準となる職業資格の枠組みをつくる取組みがなされている。これによれば職業資格をレベル1の「単純な任務の遂行に必要な基本的スキルを身につけている」とされる段階から、レベル8の「最先端の専門的スキルと技術研究や革新における重大な問題を解決し、既存の知識や専門的実践を拡張し再定義するものに必要な分析と評価を含むスキルを身につけている」とされる段階まで資格を8区分しようとするものである。

このうちレベル6が学士レベル、5が准学士レベルの知識、スキル、能力を身につけた段階としている。後期中等教育の場合は、レベル4の「仕事または学習のある分野における特定の問題を解決するのに必要な認知と実技のスキル」またはレベル3の「具体的な方法、道具、材料、情報を選択し、適用することによって、任務を遂行し問題を解決するのに必要な認知と実技のスキルを身につけている」が適合すると見られるが、職種によってはレベル2の「職務を遂行するための関連情報を利用でき、単純な規則と道具を用いて日常的問題を解決できる基本的な認知と実技を身につけている」が相当すると捉えてよいだろう。イタリアの場合は、自国の職業がこのEU基準のどれに相当するかの仕分けがまだ進んでいない。現在のイタリア基準の職業資格はレベル1から7までに区分されたものが適用されている。この区分がEUのどれに相当するかが、職種により異なり明確になっていない<sup>3</sup>。

### 3. イタリア共和国の学校教育

イタリア共和国（以下イタリアと略す）の教育制度は、日本の文部科学省と同様に国の統一した教育機関 (Ministeco Della Istruzione) があり、その下に各州の教育機関、さらに各県に教育委員会が設置されている。学校教育の制度は第1表に示したとおりである。小学校は5年間で、修了時に国語と数学の試験があり、その内容は筆記と口述試験である。義務教育の期間はかつて8年であったが2007年より10年に延長された。中等教育は中学校（前期）3年と後期（高校5年）に分かれている。

この中で前期（中学校）3年と後期（高校）5年のうち2年間が義務教育である。したがって義務教育の期間は日本より1年長く10年間である。通常に進級すれば、高校2年まで在籍しなければならない。そのほとんどは国立である。欧州の国では義務教育も修得主義を採用しており原級制度がある。イタリアも同様であり、義務教育段階から原級制度がある。したがって日本のように義務教育段階ではほとんど同年齢の児童・生徒ばかりであるということはない。2012年度3月段階での高校への登録の比率はリチェオでは49.9%、技術高校が31.5%、職業高校が20.5%である<sup>4</sup>。

|        | 学校種別 | 就学年齢  | 在籍期間                     | 種類                                             |
|--------|------|-------|--------------------------|------------------------------------------------|
|        | 幼稚園  | 3歳から  | 3年                       |                                                |
| 第1サイクル | 小学校  | 6歳から  | 5年                       |                                                |
| 第2サイクル | 中学校  | 11歳から | 3年                       |                                                |
| 第3サイクル | 高校   | 14歳から | 5年<br>高校2年までが義務教育となっている。 | リチェオ（科学、人文、古典、言語、音楽など様々なものがある）<br>技術高校<br>職業高校 |
| 第4サイクル | 大学   | 19歳から | 学部3年＋修士2年＋…              |                                                |

第1表 イタリアの学校制度

中等比較職業研究会での中嶋佐恵子（獨協大）准教授の発表資料より（2012.8）

この第2サイクルの中等教育段階のうちリチェオ以外の技術高校（Istituto professionale）及び職業高校（Istituto Tecnico）のカリキュラムとインターンシップの現状について調査した。

リチェオ (Liceo) は日本の場合には大学進学を目的とする普通科の高校に相当すると見られるが、その種類は美術、音楽、科学、人文科学、古典、などがある。技術高校は経済的分野と技術的分野の専攻がある。また職業高校は技術高校と同分野であるが、その指導内容は工業分野の電気工学関係の教科書でみる限りにおいて、職業高校は日本の工業高校のレベル、技術リセは日本の工業高等専門学校レベルの内容に近い教育をしているとみられる。数学の成績で見ると、理系の大学進学を目的とした科学リチェオの生徒とはほぼ同様とのことである。ちょうど1960年代初期までの日本の工業高校と普通科の理系進学コースの状況と似ている。卒業生の進路で分類すれば、技術高校は生産部門において、レベル4段階の知識と技能が要求される。

このレベル4は一般に仕事のある分野において、特定の課題を解決するのに必要な知識と技能の両方を習得していることが求められる。工業の分野では、技術的知識と生産的技能を習得したテクニシャン養成を基準にしている。職業高校は、5年制と4年制があり、4年制は州独自のカリキュラムで構成されている。内容は5年生の方は国の終了証が発行されその内容は技術高校に近いが、4年制の方は州の終了証が発行される。そのレベルはイタリアの職業資格基準の7段階の5年制は4レベル、4年制は2レベルである。この場合レベル5は准学士、レベル6は学士に相当する。これに対してレベル2は仕事をする上で単純な道具を用いて日常的な課題を解決できる知識と技能が求められる内容である。

#### 4. 訪問校のカリキュラム

##### 4.1. 国立フェラーリ・パチノッティ (Ferraries Patinotti) 職業高校

ミラノ市内にある学校である。全生徒数約 500 名、1 クラスの生徒数は 20 名である。

1 クラスの受講人員は多くても 25 名を越すことはないという。

授業時間の 1 時間は 60 分である。途中で 5 分程度の休憩を挟むこともある。週 32 時間の授業があり、そのうちこの学校の所在地のロンバルト州では 6 時間までは学校の自由裁量でカリキュラムが決められる。この裁量時間の 5～6 週間を企業実習、いわゆるインターンシップに当てている。5 年制の場合は 4～5 年生の段階で実施している。教員の指導持ち時間は週当たり 18 時間である。指導教員の養成は大学レベルの特別教育施設で実施される。職業リチェオの実習のみを担当する実習指導教員は職業リチェオ卒業後 6 ヶ月の教育学の実習 (インターンシップ) を受講し採用される<sup>5)</sup>。

この学校の専攻分野・電気工学、電子工学、機械工学、生物化学の 4 コースありこのうち生物化学のコースは独立した別の学校であったが統合された。ただ、校舎は他のコースとは別の場所にある。カリキュラムは第 2 表に示したとおりである。このカリキュラムからから見ると、工業の専門科目は 75 時間ある。単純比較しても日本の専門高校の時間数の 1.5 倍はある。I V E T でこの程度の時間が費やされている。また実習の単位は製図を含めると 22 時間あり実習の比率は専門科目 75 時間中 22 時間あり約 30% を占めている。

第 2 - 1 表 職業高校の共通科目

| 科目名                                                                     | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 |
|-------------------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| イタリア語 (国語) <i>Lingua e letteratura italiani</i>                         | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   |
| 英語 <i>Lingua inglese</i>                                                | 3   | 3   | 3   | 3   | 3   |
| 歴史 <i>Storia</i>                                                        | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   |
| 数学 <i>Matematica</i>                                                    | 4   | 4   | 3   | 3   | 3   |
| 法 <i>Diritto</i>                                                        | 2   | 2   |     |     |     |
| 理科 <i>Scienze integrate</i>                                             | 2   | 2   |     |     |     |
| 体育 <i>Scienze motorie e sportive</i>                                    | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   |
| 宗教 (カトリック or 代替科目)<br><i>Religione cattolica o attività alternative</i> | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   |
| 小計                                                                      | 20  | 20  | 15  | 15  | 15  |

宗教はカトリックまたは代替科目となっている。代替科目は他の宗教とは限らない。

1 時間は 60 分である。

ただ専門の科目は実験・実習と平行して行うので、実際にはこれより多くなるだろう。5 年間かけて専門技術を学習するので、日本の平均的な工業高校と比較しても専門科目の時間は 1.7 倍ある。この表にはインターンシップは含まれていない。ただ、実習室の施設、設備でみるかぎりにおいて、日本の工業高校の施設設備より少なく、基礎的なものに限定されているようである。学校教育の内容は基本的な初期職業教育の範疇にあるとみられる。

第 2－2 表 「施設設備の保守」コース専門科目（国の修了資格が得られるコース）

| 科目名                                                                    | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 |
|------------------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 製図 <i>Technologie e tecniche di rappresentazione grafica</i>           | 3   | 3   |     |     |     |
| 物理 <i>Scienze integrate(FISICA)</i>                                    | 2   | 2   |     |     |     |
| 化学 <i>Scienze integrate(CHEMICA)</i>                                   | 2   | 2   |     |     |     |
| 通信・情報技術<br><i>Tecnologie dell'informazione e della comunicazione</i>   | 2   | 2   |     |     |     |
| 実験・実習 <i>Laboratori Tecnologici ed esercitazione</i>                   | 3   | 3   | 4   | 3   | 3   |
| 機械技術 <i>Tecnologie Meccaniche e applicazione</i>                       |     |     | 5   | 5   | 3   |
| 電気・電子技術<br><i>Tecnologie elettriche-elettroniche e applicazioni</i>    |     |     | 5   | 4   | 3   |
| 施設設備の保守技術 <i>Tecnologie e tecniche di installazione e manutenzione</i> |     |     | 3   | 5   | 8   |
| 小計                                                                     | 1 2 | 1 2 | 1 7 | 1 7 | 1 7 |
| 合計                                                                     | 3 2 | 3 2 | 3 2 | 3 2 | 3 2 |

製図には図学、スケッチも含まれる。

第 2－3 生産コースの専門科目（州の修了資格の得られるコース）

| 科目名                                                                       | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 |
|---------------------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 製図 <i>Technologie e tecniche di Rappresentazione grafica</i>              | 3   | 3   |     |     |     |
| 物理 <i>Scienze integrate(FISICA)</i>                                       | 2   | 2   |     |     |     |
| 化学 <i>Scienze integrate(CHEMICA)</i>                                      | 2   | 2   |     |     |     |
| 情報・通信技術<br><i>Tecnologie dell'informazione e della comunicazione</i>      | 2   | 2   |     |     |     |
| 実験・実習 <i>Laboratori Tecnologici ed esercitazione</i>                      | 3   | 3   | 5   | 4   | 4   |
| 生産技術<br><i>Tecnologie applicate ai materiali e ai processi produttivi</i> |     |     | 6   | 5   | 4   |
| *機構学 <i>Tecniche di produzione e organizzazione</i>                       |     |     | 6   | 5   | 4   |
| 自動車と器具管理<br><i>Tecniche di gestione-conduzione di machine e impianti</i>  |     |     |     | 3   | 5   |
| 小計                                                                        | 1 2 | 1 2 | 1 7 | 1 7 | 1 7 |
| 合計                                                                        | 3 2 | 3 2 | 3 2 | 3 2 | 3 2 |

\* 名称は機構学であるが内容は機器のスケッチとして捉えた方がよい。

製図には図学・スケッチも含まれる。

#### 4.2. 国立ルイージ・ガルバーニ (Luigi Galvani) 技術高校

この学校もミラノ市内にあるが、職業高校に比較して生徒のレベルは高いとのことである。

技術関係のコースに加えてリチェオもある。リチェオは科学リチェオと外国語リチェオの2コースがある。リチェオは卒業後大学などの高等教育機関への進学を目指したが高校である。科学リチェオのカリキュラムと技術高校のカリキュラムを比較する。技術高校には電子技術コース、医療電子コース、電子機械コース、機械コース、情報技術コースと計5コースがある。1クラス30名でリチェオも含めて1学年210名である。しかし、高校1年での留年者が多く2年次には150名になっているとのことである。目的意識が希薄な生徒が脱落していく。また不況の影響もある。インターンシップは技術高校の生徒の各コース1名程度で少ない。教員の持ち時数は1週間に18時間である。ミラノ市はイタリアの工業都市であるが、不況の影響で製造業の求人が少なくなっている<sup>6</sup>。

第3-1表 技術高校の各コース共通科目

| 科目                                                  | 1年       | 2年       | 3年 | 4年 | 5年 |
|-----------------------------------------------------|----------|----------|----|----|----|
| イタリア語(国語) Lingua e lettere italiane                 | 4        | 4        | 4  | 4  | 4  |
| 英語 Lingua inglese                                   | 3        | 3        | 3  | 3  | 3  |
| 歴史・市民と構成 Storia cittadinanza e costituzione         | 2        | 2        | 2  | 2  | 2  |
| 数学 Matematica                                       | 4        | 4        | 4  | 4  | 4  |
| 法と経済 Diritto ed economica                           | 2        | 2        |    |    |    |
| 理科(地学と生化学) Scienze della terra e biologica          | 2        | 2        |    |    |    |
| 物理 Fisica                                           | 3<br>(1) | 3<br>(1) |    |    |    |
| 化学 Chimica                                          | 3<br>(1) | 3<br>(1) |    |    |    |
| 体育 Scienze motorie e sportive                       | 2        | 2        | 2  | 2  | 2  |
| 宗教(カトリックまたはその他)<br>Religione o attività alternative | 1        | 1        | 1  | 1  | 1  |
| 小計                                                  | 26(2)    | 26(2)    | 16 | 16 | 16 |

第3-2表 技術高校の専門科目 電子技術コース

| 科目                                     | 1年    | 2年    | 3年    | 4年    | 5年     |
|----------------------------------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 製図 Tecnol.e tecniche dir rapp .grafica | 3(1)  | 3(1)  |       |       |        |
| 情報技術 Tecnologie informatiche           | 3(2)  |       |       |       |        |
| 応用技術 Scienze e tecnologie applicate    |       | 3     |       |       |        |
| 電気・電子技術 Elettronica ed Ellettotecnica  |       |       | 7(2)  | 6(3)  | 6(3)   |
| 技術データ処理 T.D.P                          |       |       | 5(4)  | 5(4)  | 5(4)   |
| 自動制御システム Sistemi Automatiche           |       |       | 4(2)  | 5(2)  | 5(3)   |
| 小計                                     | 6(3)  | 6(1)  | 16(8) | 16(9) | 16(10) |
| 総計                                     | 32(5) | 32(3) | 32(8) | 32(9) | 32(10) |

第3表に技術高校のカリキュラムのうち電子技術コースとメカトロニクスコースのカリキュラムを示す。第5表に科学リチェオのカリキュラムをあげる。電子機械のコースは産業用の電子機器(主としてロボット技術)について学ぶコースである。

職業高校のカリキュラムと比較すると、共通科目の時間数が100時間ある。職業高校の85時間と比較すると多くなっている。ただ、職業高校は専門科目のなかに応用物理と応用数学が含まれている。これも共通科目とみなせば93時間となり表面上の違いはみられない。この数学と物

理相当数の時間を割かねばならない必然性があるのかもしれない。

第3-3表 技術高校の電子機械（メカトロニクス）コース

| 科目                                           | 1年 | 2年 | 3年         | 4年    | 5年       |
|----------------------------------------------|----|----|------------|-------|----------|
| 製図 Tecnol.e tecniche di rapp.grafica         | 3  | 3  |            |       |          |
| 情報技術 Tecnologie infomatiche                  | 3  |    |            |       |          |
| 応用技術 Scienze e tecnologie applicate          |    | 3  |            |       |          |
| 力学とエネルギー Meccanica, macchine ed energia      |    |    | 4<br>(2)   | 4(2)  | 4        |
| 自動制御システム Sistemi e automazione               |    |    | 4<br>(3)   | 3(3)  | 3<br>(3) |
| 電子機器技術 Tecn.meccaniche di proc.e.pr          |    |    | 5<br>(2)   | 5(3)  | 5<br>(4) |
| * スケッチ 産業機器の機構 Disegno,proget.e.org.<br>ind. |    |    | 3          | 4     | 4<br>(3) |
| 小計                                           | 6  | 6  | 1 6<br>(7) | 16(8) | 16(10)   |
| 総計                                           | 32 | 32 | 32(15)     | 32(8) | 32(10)   |

\* 日本の専門高校ではこれに類する科目は製図に含まれるが、企業内教育などでは産業機器の機構をスケッチとして重要視される作業である。

第4表 科学リチェオのカリキュラム

| 科目                                                  | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|-----------------------------------------------------|----|----|----|----|----|
| イタリア語とイタリア文学 Lingua e letteratura italiana          | 4  | 4  | 4  | 4  | 4  |
| 外国語 Lingua straniera                                | 3  | 3  | 3  | 3  | 3  |
| 歴史と地理 Storia e Geografia                            | 3  | 3  |    |    |    |
| 歴史 Storia                                           |    |    | 2  | 2  | 2  |
| 哲学 Filosofia                                        |    |    | 2  | 2  | 2  |
| 数学 Matematica                                       | 5  | 4  | 4  | 4  | 4  |
| 情報科学 Infomatica                                     | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |
| 物理 Fisica                                           | 2  | 2  | 3  | 3  | 3  |
| 自然科学 Scienze naturali                               | 3  | 4  | 5  | 5  | 5  |
| 芸術史とデッサン Disegno e storia dell Arte                 | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |
| 体育 Scienze motorize e sportive                      | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |
| 宗教（カトリック）又は代替活動<br>Religione o attivita alternative | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |
| 総計                                                  | 27 | 27 | 30 | 30 | 30 |

## 5. 職業教育の教員と指導者養成のシステム

日本の専門高校の教員養成は教育職員免許法に規定された学位を取得し、加えて教員に必要な教職の単位を取得すれば教員免許が取得できる。工業科の場合は「工業」と「工業実習」の2種類の免許状がある。工業の基礎資格は学士であり、工業実習は必ずしも学位を必要としない。一定の実務経験に加えて、大学などの教育機関で単位を取得すれば獲得できる。実際に現場で教壇に立つほとんどの工業科の教員は実務経験を持たないものが多い。そのため、実技を伴う実習指導が円滑にできないという問題があげられる。

欧州の場合、この職業教育を担当する教員は3種類ある。

### 1 一般教育担当出身の教員

職業の特定の科目を担当する教員として採用される。応用数学、応用物理などの科目を担当する教員である。一般教育に類する科目を担当する教員であるため、必ずしも実務の経験は必要でない。

### 2 技術者・技能者出身の教員

一定の実務経験をもつ技術者や技能者に対して、教育に関する専門的養成訓練を行い教員として採用される。欧州の職業高校で職業に関する専門科目を担当する。職業科教員の主流である。ドイツ、フランスなどの工業教員はこれに該当する教員が多い。国に雇用されるため、国家試験（コンクール）に合格しなければならない。イタリアもこのシステムが取り入れられている。教員志望者の競争も激しく倍率は高い<sup>7</sup>。

### 3 職業的専門教員養成出身の教員

工業教員を養成する特別の専門的教員機関があり、そこの卒業者が主流となっている。学生は高等教育に進学した段階から職業教育を専攻する。ノルウェー、オランダ、ベルギーなどにこの制度がある。

また、企業などの場で職業訓練などを指導する指導員は後期中等教育段階で職業教育に従事する教員とは明確に区別されている。「徒弟型」の入職システムをとっているドイツやオーストリアなどでは、教員は教育会で働き、指導員は産業界や商業界で働く人と定義されている。教員は生涯を通じて職の保障があり、成果に基づくものではないという立場が明確である。一方指導員は公的職業資格を必要とし、経済的環境に支配される。

学校教育型の入職システムをとっているフランスでは教員は公式の教育制度で採用され働く人であり、指導員は企業や団体で働き、その職業に必要な職業資格を取得している人である。イタリアの場合も同様である。イタリアの場合はほとんどが国立であるため国家公務員としての身分が保証されている。教員は指導教科・科目の専門家として採用される。したがって国家試験がある。いずれも一定の実務訓練が必要とされている<sup>8</sup>。

## 6. 結言

イタリアの後期中等教育段階の職業教育のカリキュラムの内容と担当する教員の問題について調査・研究を行った。この中で得た知見を要約すると以下ようになる。

第1点は、イタリアの後期中等教育段階での技術・職業教育は技術高校と職業高校とでは指導レベルに差がある。それは、設置学科にも現れている。前者はイタリア基準の4レベルであり、電気や機械技術など論理的な知識を前提とする学科であるが、後者は2レベルの施設設備のメンテナンスなど、定型的な知識技能の習得で行なえる職種である。工業分野の場合技術高校は生産技術者の養成を目的としており、職業高校の場合は製造技術者の要請を目的としていると捉えられる。この場合の生産技術者とは、生産現場において応用的技術を活用して生産活動に対処でき

る労働者であり、製造技術者とは基礎技術を活用して生産活動に従事できる労働者である。

第2点はカリキュラムに占める実験実習の内容は、全体の約30%程度であり、この割合は日本の専門高校の工業科の場合と大きな違いはない。また、実習設備、実習内容も基礎的内容が多く、日本の高校と比較して小規模なものが多い。電気や機械の設備も発電機、電動機、高電圧発生装置、あるいは材料試験機のように日本の工業高校ならどこの学校にも設置されている設備は見当たらない。学校は初期職業教育の役割に徹していると捉えられる。

第3点は専門高校の教員養成の問題である。基本的に欧州の国では、工業など実務を必要とする教員には一定の実務教育・訓練を課したのち教員資格を与えている。とくに技能的内容を含んだ実習を指導する教員には特別の訓練が行われている。少なくともまったく実務経験なしで免許を与え教壇に立てるという日本的システムは修正される必要があろう。

## 参考文献

岩田和彦「改革が進む欧州各国の職業教育訓練と日本」『日本労働研究』535号、2011。

平成23年度文部科学省委託研究報告書「諸外国における後期中等教育の教育機関における職業教育の現状に関する報告」、2012。

堀内達夫他「中等教育・職業教育における新カリキュラム開発の動向に関する国際比較研究」、科学研究費補助研究成果報告書（平成22～23年度）、課題番号20330164、2012。

（その他、本文中のカリキュラム表は現地の技術高校と職業高校から直接受け取ったものを転記した。翻訳には姫路独協大学の中嶋佐恵子准教授の援助を受けた。）

（この研究は文部科学省科学研究費の課題番号23330233の研究分担者として補助金を受けたものである。）

## 注

- 1 伊藤一雄他「キャリア開発と職業指導」法律文化社 2012、pp.126-127。
- 2 佐々木英一「ドイツにおける職業教育・訓練の構造転換－産業構造の変化とデュアルシステムの危機－」『追手門大学心理学紀要』2010、第4巻。
- 3 国立フェラーリー・パノッティ職業高校の副校長からの聞き取りによる。
- 4 中嶋佐恵子、比較中等職業教育研究会の発表資料（2012.9）による。
- 5 同上3による。
- 6 国立ルイ・ガルバーニ技術高校の校長ほか同校教員よりの聞き取りによる。
- 7 上記注6参照。
- 8 上記注6参照。